

「地域防災のツボ」

～防災【も】まちづくりのすすめ～

防災委員会委員長 東二郎

10月25日（金）横浜市開港記念会館1号室に於いて、東京大学生産技術研究所教授/東京大学社会科学研究所特任教授の加藤孝明先生をお招きして、表題の「地域防災のツボ」と題して講演頂きました。

台風21号の影響で朝方雨脚が強く参加者の方の足元を危惧致しましたが、42名の参加を頂き、無事講演会を開催出来ました事、感謝申し上げます。

【参加者感想】

講習会直前に到来した大型の台風は、関東信越地方に甚大な爪痕を残した。各地で河川が氾濫し、私の携わった建設現場でも床上浸水する事態となり、かなりの被災者意識を持って参加した会となった。

はじめに、大阪府北部地震、台風15号19号、西日本豪雨、九州北部豪雨、糸魚川大規模火災といった近年の災害を振り返り、豪雨が多発しているのは気候変動による見方も紹介された。その後県下で想定される、首都直下地震や、倒壊後の延焼範囲を示す「延焼運命共同体」について説明頂いた。「延焼運命共同体」は同一火災で延焼する範囲を塗分けた地図上のもので、糸魚川大火災と比較できる構図になっており大変理解しやすかった。仕事柄、火災については意識してきた自覚はあったものの、これ程大きな火災につながるイメージはなかった。

本題の、災害への備え、とらえ方については、印象的な場面が紹介された。高齢な町内会長がPCを駆使し浸水予測について話している写真だった。同じ町に住み、同じリスクを背負った人達が、事前にもど様な準備ができるが考える。そういう場面だった。普段、私が遭遇しない、あるいは避けて来た場面でもあり自発的に企画・運営している姿に強い衝撃を受けた。特定の場所に住むと決めていない私には、駅と自宅の関係しか存在しない。今回の台風で、リスクと隣合せで生きてきた事が身に沁みると、結構危うい状況である事に気づく。今回の講習会は、防災手段について聞きに行ったつもりだったが、人と人とのつながりや、まちづくりが大切と教えて貰う結果となった。そういう意味ではこの「防災」というテーマの入口は、多くの社会問題と近い関係に

あるのかもしれない。

まちづくり自体には関心があるので、参加できた際には、是非この目線でも捉えて見てみたい。

最後に講習会中「自助・共助・公助」についても触れられた。日頃、建築の設計をしていると自助や公助についての接点はあるものの、共助についてはなかなか縁がない。講習会冒頭の挨拶で、今後建築士会の役割は益々重要となり、他業界との連携も期待されるとの激励があった。まさに共助だと思った。今回このような会に参加でき、私もその破片を頂く事ができた。ご多忙の中で準備された、建築士会防災委員会の皆様には心から感謝申し上げたい。

（横浜支部 繁田尊友）



講演会の様子

【アンケート結果】

- 災害支援として、建築士はどのようなことが出来ると思いますか？（いくつでも選択可）
 - 1 応急危険度判定・耐震判定（48%）
 - 2 住宅相談（35%）
 - 3 避難所設置（動線・ブース計画 15%）
- 参加者ご意見
 - ・災害について知らない事が多く考えさせられた。
 - ・幅広い内容の話で、質問が少ないのが淋しかった。「防災は街づくり」でもある。防災が日常になると良いですね。
 - ・GISの活用を町内で行っている内容は、素晴らしいと思った。
 - ・「共助」のベースとなる組織づくりがどうすればできるのか。既に「町会」は組織的活動のできないところが大半となってきている。
 - ・地元の地域でも活用したいと思いました。ありがとうございました。